

高等学校家庭科における和服に関する学習内容の検討 — 高校生の意識調査と教科書内容の比較 —

A study of the learning contents of Kimono in the high school home economics
— In comparison with analysis between the questionnaire of high school students
and contents of the textbook —

伊東奈々・田中淑江
Nana ITO, Yoshie TANAKA

1 はじめに

和服は日本の伝統衣服であるが、現代の日本人にとって身近な存在ではなくなっている。近年において和服は、礼服や晴着として人生の節目に着るか、あるいは浴衣を夏の花火大会や祭りに着る程度であり、自ら好んで着ようとしないうちに着用機会は少ない。

かつては家庭内において年長者から年少者へ和服の取り扱い方が継承されてきたが、着用機会の減少に伴い、家庭内での継承が困難となってきた。従って現状では、現代の中学生や高校生をはじめとした若い世代にとって、和服に関する知識を継承し、次世代へ受け継ぐことは難しいといえる。

このような状況の中、教育現場では中学校家庭科の授業において和服の基本的な着装、すなわち浴衣の着装を扱うことが平成20年に改訂された現行学習指導要領に明記され、学校教育による和服に関する知識の継承が試みられている。一方で高等学校の学習指導要領には和服について扱う旨の記載がなく、中学校での学びを発展させることができていない。高校生にふさわしい和服に関する学習内容を検討する研究は、これまで行われてこなかった。

本研究では、高等学校家庭科における和服に関する授業を計画するにあたり、留意すべきことから明らかにするため、高校生を対象とし

た意識調査を行う。その結果より授業対象である高校生の現状を把握した上で、家庭科の授業で使用されている教科書の内容を検討し、課題を明らかにすることを目的とする。

2 高校生の和服に対する意識調査

2-1 調査方法

高校生を対象としたアンケート調査を行い、集計した結果をもとに、高校生にとって和服とはどのような存在であるか考察する。

アンケート用紙を図1に示す。

調査時期：平成25年度（2013年度）～平成27年度（2015年度）

調査対象：神奈川県私立女子高等学校の2年生（平成25年度：251名、平成26年度：242名、平成27年度：251名、合計：744名）

調査方法：質問紙法（集合調査）

集計方法：単純集計

2-2 調査結果

アンケート結果を図2～図10に示す。得られた回答のうち、本研究に特に関わりのある9項目について述べる。

「1. 和服は好きですか」の質問に対し、「とても好き」「好き」「どちらかというところ好き」と肯定的に回答した生徒が大勢を占めた。平成25

高等学校家庭科における和服に関する学習内容の検討

年度：93.57%、平成26年度：93.39%、27年度：94.76%と、いずれの年でも90%以上の生徒が好意的に回答した。

このことより、女子高校生の和服に対する好感度は非常に高いことが明らかとなった（図2）。

「4. 今まで何度浴衣を着たことがありますか」の質問に対して、これまで一度でも浴衣を着用したことがある生徒は、平成25年度：97.6%、平成26年度：97.5%、平成27年度97.6%となり、いずれの年も97.5%以上の生徒に着用

経験があった。

一方で、浴衣以外の長着の着用経験は少ない結果となった（図3）。

「5. 今まで何度着物を着たことがありますか」の質問に対し、「1～3回」という回答が最も多く、このように回答した生徒の多くは七五三のお祝いで着用したとのことであった。七五三での着用経験は現代の高校生の大多数にとって唯一の和服の着用経験であり、この経験は高校生の和服に対するイメージに直結する可能性がある（図4）。

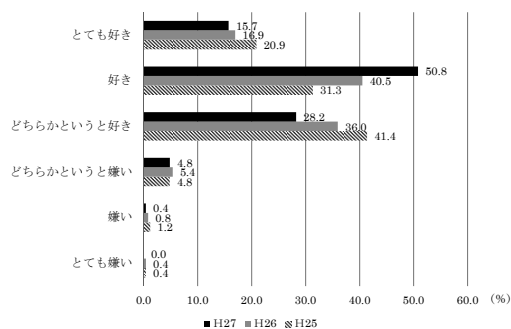


図2 和服は好きですか

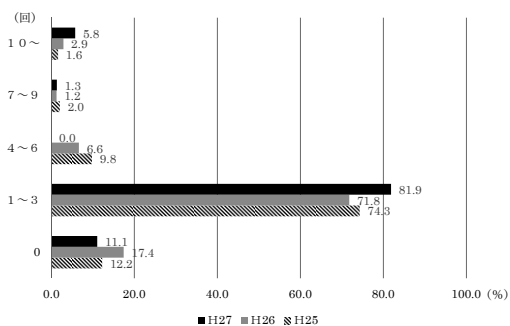


図4 着物（袷長着）の着用経験

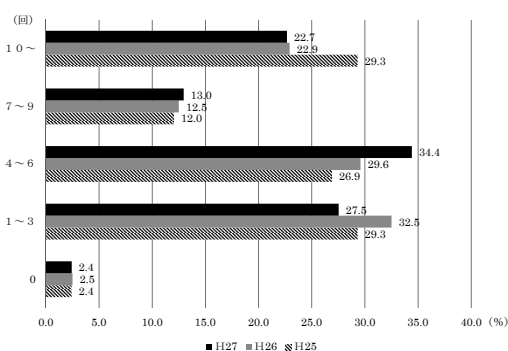


図3 浴衣の着用経験

「6. 和服を自分で着られますか」の質問に対しては、自分で浴衣を着用できると回答した生徒は15%程度に留まった。本や動画をみたり、手助けがあったとしても着られないと答えた生徒がいずれの年も半数に上り、「高校生が和服を着られない」という現状の程度は、「きれいに着ることができない」のではなく「着方が全く分からない」という状態であることが判明した。前述のとおり、ほとんどの生徒に浴衣の着用経験がある一方で、自分で着装できる生徒は少なく、現代の高校生の大多数にとって、浴衣や着物は誰かに着せてもらわなければ着られない衣服であるという実態が明らかとなった(図5)。

さらに、和服を管理する技術のひとつである「7. 和服のたたみ方を知っていますか」の質問には、正しいたたみ方を知らないと答えた生徒が大多数を占めた。たたみ方を知っていると答えた生徒は最も多い年でも13.1%にとどまり、浴衣を自分で着ることができると答えた生徒よりも少ない結果となった(図6)。

このことから現代の高校生はたとえ自分で浴衣の着装ができたとしても、浴衣を着用した後の手入れや管理を必ずしも自分では行っていないことが窺える。家族やクリーニング業者により洗濯やアイロンがけ、たたみ仕上げなどの手入れと保管がされていると考えられ、高校生に和服の取り扱いに関する知識はほとんど継承されていないことが推察される。

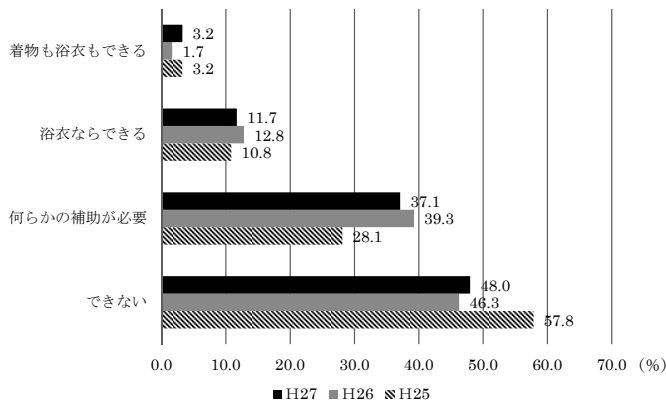


図5 着付けはできるか

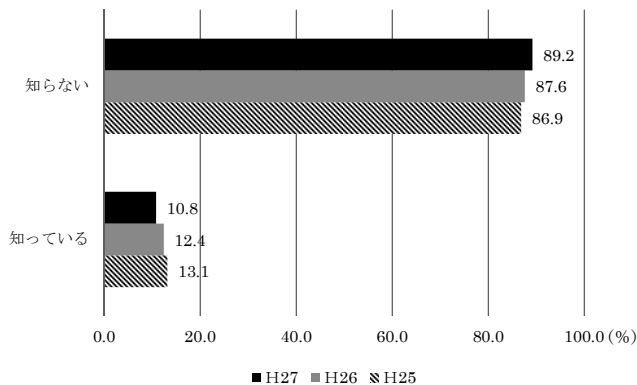


図6 和服のたたみ方を知っているか

高等学校家庭科における和服に関する学習内容の検討

「9. 浴衣を着ようと思うのはどのようなときか」の質問に対しては、「花火大会」「祭り」という、夏のイベントで着用したいという回答が大多数を占めた（図7）。浴衣は休養着として利用されてきた歴史もあるが、現代では夏のイベントを楽しむための衣服として高校生にも広く定着していることが窺える。

一方、「10. 着物を着ようと思うのはどのようなときか」の質問では、成人式での振袖の着用意向が高いことが明らかになった。成人式以外の機会にも積極的に着物を着ようとする回答はいずれも15%以下に留まった（図8）。

「和服の魅力は何だと思いますか」の質問では、「品よく見える」「美しい」などの着用した際の見た目に関する項目が強く肯定された。一方で「仕立て替えができる」「平面にたためる」

などの、和服そのものの構造の意義はほとんど理解されておらず、魅力として認識されにくいことが明らかとなった（図9）。

さらに、「和服の欠点は何だと思うか」の質問に対しては、「着付けが難しい」「着る機会がない」ことが挙げられた（図10）。着付けができない生徒が大多数であることは前述の通りであり、着る機会がないことについては、どのような場面でのようなものを着たらよいか知識を持たないことに加え、自分で着装できないことがさらに着用機会を狭めていると考えられる。「値段が高い」「機能性に欠ける」「洗濯が難しい」を加え、和服の欠点として挙げられる上位5項目の多くは情報不足による偏ったイメージである。情報を与えることで解消される可能性が高いと考えられ、教育の意義を見出すことができる。

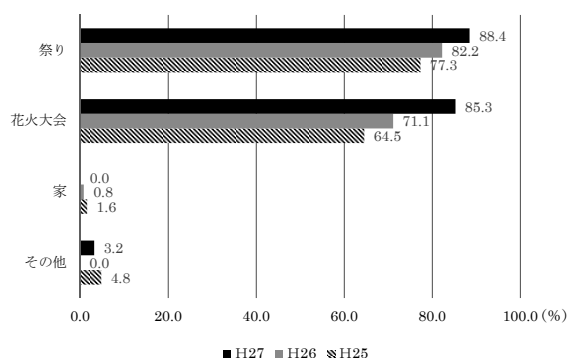


図7 浴衣を着ようと思うのはどんな時か（複数回答）

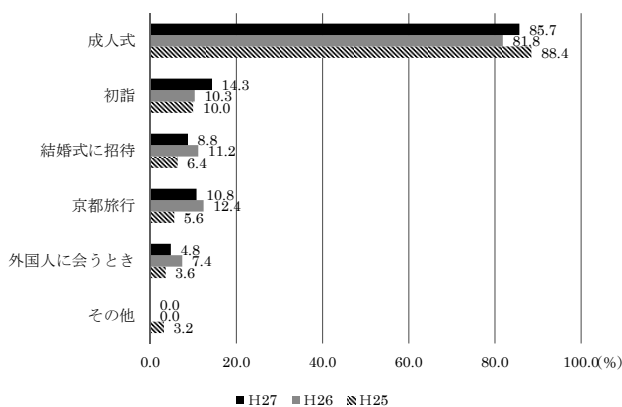


図8 着物を着ようと思うのはどんな時か

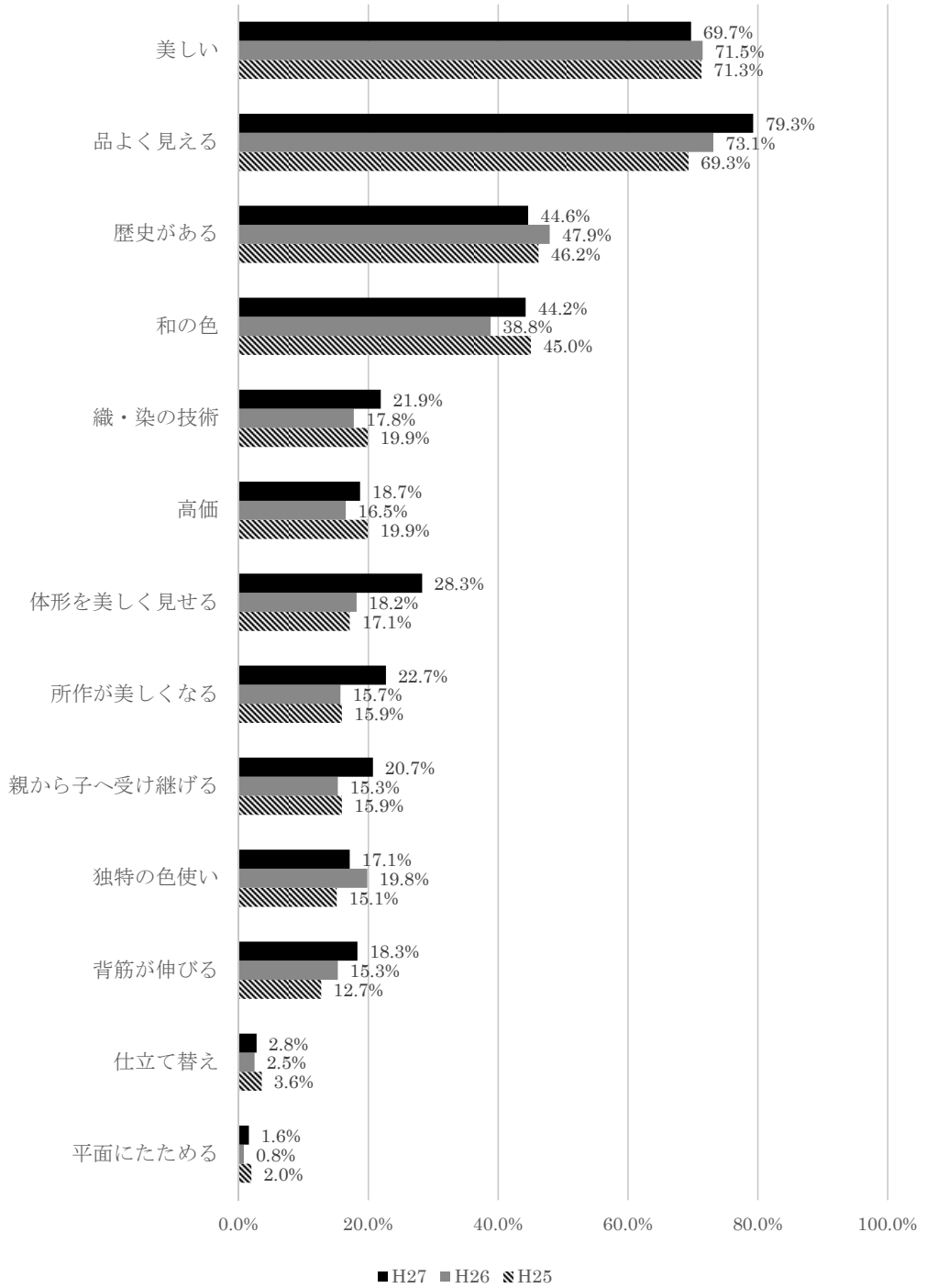


図9 和服の魅力は何だと思うか (複数回答)

高等学校家庭科における和服に関する学習内容の検討

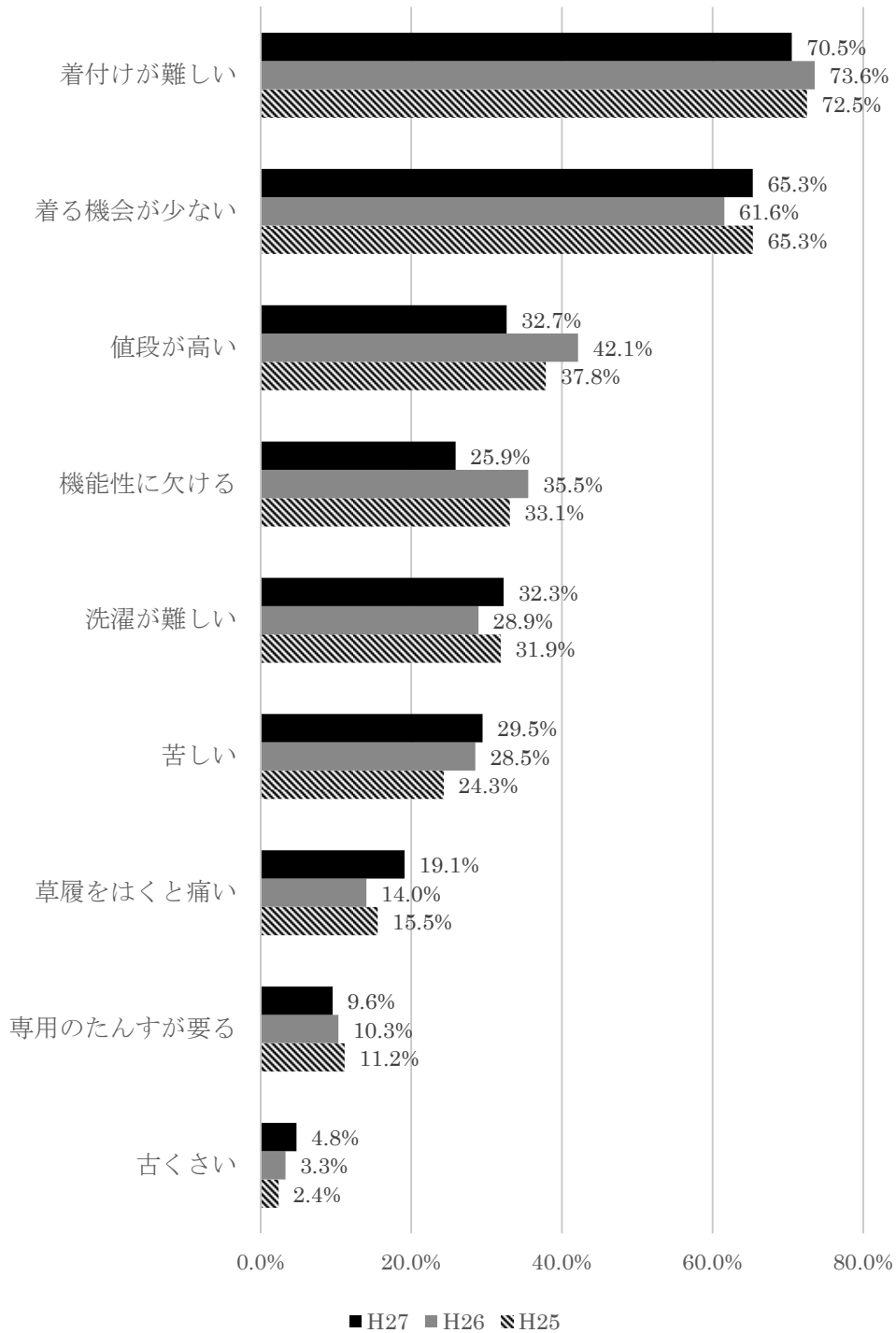


図10 和服の欠点は何だと思うか（複数回答）

3 高等学校家庭科の教科書の調査

3-1 調査方法

現行で使用されている高等学校家庭科の教科書（家庭基礎及び家庭総合）計19冊について、和服に関する記載内容を調査する。調査対象一覧を表1に示す。

3-2 調査結果

教科書から抜き出した和服に関する記載内容

をキーワードでまとめた。類似の内容であっても教科書ごとに書き方が異なるため、前述のアンケート（図1）の「12. 和服の魅力は何だと思いますか」「13. 和服の欠点は何だと思いますか」の質問で用いた選択肢を用いて単語を統一し、のちに集計しやすいように学習内容ごとに整理した（表2）。

表1 調査対象教科書一覧

No.	タイトル	出版社	教科書番号		発行年	著者
1	家庭基礎 自立・共生・創造	東京書籍	2東書	家基311	平成29年	牧野カツコ ほか
2	家庭基礎 とともに生きる 明日をつくる	教育図書	6教図	家基302	平成25年	小澤紀美子 ほか
3	最新 家庭基礎 生活を科学する	教育図書	6教図	家基303	平成25年	小澤紀美子 ほか
4	新家庭基礎 今を学び 未来を描き 暮らしをつくる	教育図書	6教図	家基312	平成29年	小澤紀美子 ほか
5	高等学校家庭基礎 グローバル&サステナビリティ	教育図書	6教図	家基313	平成29年	伊藤葉子 ほか
6	新家庭基礎 パートナーシップでつくる未来	実教出版	7実教	家基314	平成29年	宮本みち子 ほか
7	新家庭基礎21	実教出版	7実教	家基315	平成29年	横山哲夫 ほか
8	新図説家庭基礎	実教出版	7実教	家基316	平成29年	宮本みち子 ほか
9	家庭基礎 明日の生活を築く	開隆堂	9開隆堂	家基317	平成29年	大竹美登利 ほか
10	新家庭基礎 主体的に人生をつくる	大修館書店	50大修館	家基318	平成29年	佐藤文子 ほか
11	未来をつくる 新高校家庭基礎	大修館	50大修館	家基319	平成29年	佐藤文子 ほか
12	高等学校 新版家庭基礎 とともに生きる・持続可能な未来をつくる	第一学習社	183第一	家基320	平成29年	阿部幸子 ほか
13	家庭総合 自立・共生・創造	東京書籍	2東書	家総307	平成29年	牧野カツコ ほか
14	家庭総合 とともに生きる 明日をつくる	教育図書	6教図	家総302	平成25年	小澤紀美子 ほか
15	新家庭総合 今を学び 未来を描き 暮らしをつくる	教育図書	6教図	家総308	平成29年	小澤紀美子 ほか
16	新家庭総合 パートナーシップでつくる未来	実教出版	7実教	家総309	平成29年	宮本みち子 ほか
17	家庭総合 明日の生活を築く	開隆堂	9開隆堂	家総310	平成29年	大竹美登利 ほか
18	新家庭総合 主体的に人生をつくる	大修館	50大修館	家総311	平成29年	佐藤文子 ほか
19	高等学校 新版 家庭総合 とともに生きる・持続可能な未来をつくる	第一学習社	183第一	家総312	平成29年	阿部幸子 ほか

高等学校家庭科における和服に関する学習内容の検討

表2 調査結果一覧

	和服に関わる内容	関連する質問項目
家基 311	仕立て替えしやすい/家族の絆/端切れの利用/たためぎ/縁起の良い模様	仕立て替え/親から子へ受け継げる/たためぎ/柄
家基 302	成人式に着る	機会
家基 303	構成の違い/ゆとりがおおい/体形に差があっても着用できる	
家基 312	機会：お宮参り・七五三・浴衣・結婚式/西陣織/構成の違い	機会/織り・染の技術
家基 313	高性能繊維/構成の違い/着付けが必要/洋服より活動的でない/ 日本独自の伝統文化/染めや織りの技術の高さ/色柄の美しさ/ 海外でもkimonoとして知られている/環境への配慮の点から見直したい/ 繰り回し/和服がイベントのムードを盛り上げる/手縫い/ ひもや帯で留める/サイズの変化に対応可能/たためぎ=場所を取らない/ 部分洗いや解き洗いができる	機能性/着付け/歴史がある/美しい/柄/仕立て替え/ たためぎ/洗濯
家基 314	寛衣形/構成の違い/直線裁ち・直線縫い/手縫い：縫い目にきせをかける	
家基 315	再生・縫い直し・繰り回し	仕立て替え
家基 316	お宮参り・七五三・成人式・結婚式・還暦祝いなどに着る	機会
家基 317	記載なし	
家基 318	七五三/前開き型・形は定型・素材を変えたり綿を入れて気候に対応/構成の違い	機会
家基 319	前開き型・形は定型・素材を変えたり綿を入れて気候に対応 構成の違い	
家基 320	宮参り・七五三・結婚式・還暦などに着る/浴衣の着方/柄の意味・季節感/ 仕立て直し・繰り回し・古着屋	機会/着付け/仕立て替え/柄
家総 307	七五三・成人式・卒業式・還暦 「ハレ」の場で着る/模様の意味/式服には家紋をつける/染め・織り・刺繍の技術/西陣織 友禅染/仕立て直し/家族の絆/端切れの有効活用/たためぎ/浴衣の着付け/男物と女物の違い	機会/柄/染め・織り/仕立て替え/ 親から子へ受け継げる/たためぎ/着付け
家総 302	各地の染め・織り/構成の違い/日常着だったころの和服/夏祭り・結婚式・成人式/平面構成/高温多湿に対応しやすい/染めや織りなどの伝統技術/世界でも高い評価/年齢や場面で着分ける 社会生活上の機能/四季と模様/七五三・お祭り着る/格/染め直し・仕立て直し 再生 ごみを減らす観点から注目/繰り回し/各部の名称/慣用語	染め・織り/機会/柄/仕立て替え
家総 308	構成の違い/夏祭り・結婚式・成人式/染めや織りなどの伝統技術 世界でも高い評価/仕立て直し・染め直し/物を大切に 各部の名称/慣用語/格/産着・七五三・成人式・結婚式・還暦などに着る/和裁士の仕事	機会/染め・織り/仕立て替え
家総 309	寛衣形/構成の違い/直線裁ち・直線縫い/手縫い 縫い目にきせをかける	
家総 310	共生/前開き型/服装史/現代の着物 レースの帯・西陣のネクタイ/ 構成の違い/単とは・袴とは/衣がえ	歴史
家総 311	構成の違い	
家総 312	直線縫い 空気が通り涼しい/形は一定/織・染め・刺繍が発達/ 季節感/現代の着用者に合わせて衣生活を創造/たためぎ/ 着物は染め・帯は織りが格上/友禅染・西陣織/服装史/ 宮参り・七五三・結婚式・還暦などに着る/衣がえ/袴合わせ/浴衣の着付け	織り染め/たためぎ/歴史/機会/着付け

たとえば、家基311の教科書には「縁起の良い模様」についての記述がある。これは、家基313の「色柄の美しさ」、家基320の「柄の意味」、家総307の「模様の意味」、家総302の「四季と模様」と類似の内容であるため、どれも和服の「柄」に関する学習内容としてまとめた。表中の下線を引いたキーワードが、単語の統一作業を行ったキーワードである。

さらに、和服に関する内容の記述を、アンケートで用いた選択肢と比較し集計した。結果を図11に示す。

「着用機会」に関する項目が最も多く、19冊のうち9冊に確認された。「成人式で振袖を着る」「結婚式で紋付き羽織袴・白無垢を着る」などの例が写真で掲載されるなど、通過儀礼での着用か、夏のイベントでの浴衣の着用が取り上げられていた。

「仕立て替え」に関する項目が次いで多く、8冊に見られた。1着の着物を仕立て替えて再生する伝統的な衣生活に注目し、資源の有効活用観点から扱うものが多く見られた。繰り返し

については最終的に燃やして、灰を肥料に利用するまで掲載しているものと、裂き織や刺し子で再生・補強して使用するところまでの記載に留まるものなど、内容にばらつきが見られた。

「染織技術」について言及するものは6冊あり、職人の技術の高さについて述べている。海外からも注目される技術として紹介しているものも見られた。多くは「西陣織」「友禅染」などを地域の名産として紹介するもので、写真の掲載も見られた。

和服は縫い目に沿って折ると平面に「畳むことができる」ことについて、5冊に記述が見られた。和服の特徴のひとつとして挙げるほか、たたみ方を4コマ程度のイラストで図解するものもそのうち3冊見られた。

「着付け」のしかたに関しては主に授業時数の多い家庭総合の教科書で、イラストで図解する方法で掲載されていた。掲載されているのは女性の浴衣の着付けと半巾帯の文庫結び、男性の角帯の貝の口の結び方のみであり、男性の浴衣の着方は図解されていなかった。

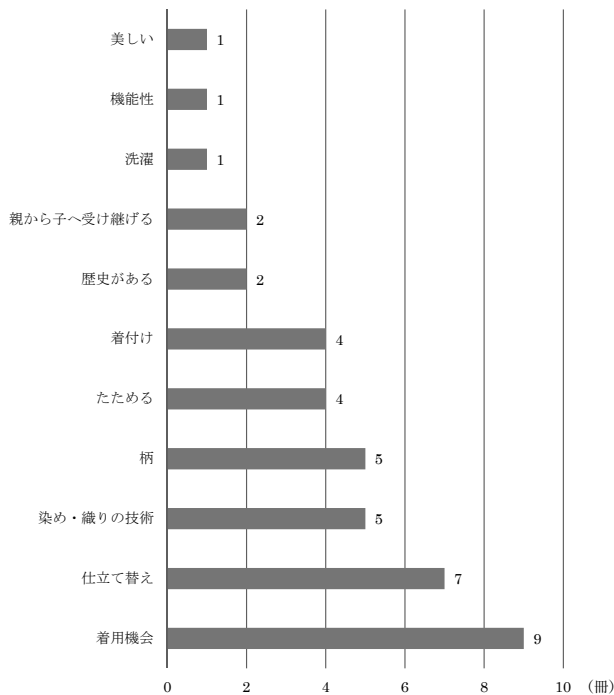


図11 学習内容の集計結果

4. 考察

アンケート調査より得られた高校生の和服に対する認識と、教科書の記載内容の比較検討を行う。

授業計画に対して教科書の内容に不足がある場合、教員が補足説明して授業を行うことになる。しかし、家庭科教員は必ずしも和服に通じているわけではなく、多くの家庭科教員にとって和服に関する情報の補足は大きな負担である。

家庭科の授業内で広く和服を扱うためには、教科書に授業実施に必要な情報が網羅されている必要があるが、現在は高等学校での学習内容に関する研究が未だ十分でなく、教科書の著者・出版社によって内容に大きな差が存在する。教科書の記載内容の整理を行い、改善すべき課題を明確にする必要があると考える。

本研究で得られた課題を表3に示す。

項目	問題点	課題
着用機会	婚礼衣装や浴衣など一般的な着用シーンの写真が用いられており、新鮮に感じられない	格の高いものと浴衣だけでなく、格の高いものから低いものまで適した着用シーンとともに段階的に記載する必要があるのではないか
仕立て替え		環境・資源の有効活用などのテーマと併せて扱うことができ、高校生にふさわしいテーマの一つである この分野での授業展開方法の検討が必要である
染織技術	織物や染め物の名称は写真で見ただけでは現実感がなく、実物資料などを用いない限り興味を引きにくい	映像資料や実物を見るなどの実習を交える場合、教員の負担が大きい
柄	その模様が「縁起が良い」理由の説明がない 例：健やかな成長の願いを込めて用いられる麻の葉文様の産着…（家総307）	なぜその願いつながるのか、由来まで紹介する必要がある 文化の本質につながる根本の価値観が伝えられていない
たためる	余計なしわをつけることなくたたむことができる魅力はほとんど伝えられていない たたみ方の図解はコマ数が少なく、初めて和服を取り扱う者にとってはわかりにくい 説明に用いられている和服の部位名称の説明が不十分	部位名称や形状の説明など、基本的な事項を扱う必要がある たたむことのできる意義を伝える
着付け	男性の長着の着方の説明が省略されている 良い着姿とはどういうものか説明がなく、評価につなげるのが難しい	男女の長着の形状や着付けの違いを比較しながら省略せずに掲載する 着付けの要点を紹介し、注意すべきポイントを明確にする
その他	高校生が和服の欠点だと感じている「洗濯が難しい」「高い」「着ると苦しい」の3点についてはほとんど言及がない	「手軽な洗濯の方法」「安価な入手方法」「苦しくなりにくい着付け」を紹介できれば高校生の感じる「和服の欠点」を軽減することができる 「現代の和服」というテーマで授業を行えばこれらを網羅できると考えられるが、教科書に記載がないため教員独自の授業として計画する必要がある

表3 明確になった課題一覧

「着用機会」に関する記述は約半数の教科書に見ることができた。高校生へのアンケートでも和服自体の好感度は高いにも関わらず、いつ着ればよいかわからない、もっと着たいが着る機会が少ない、という意見が聞かれた。和服をどのような時に着ればよいかというテーマは、高校生の関心の高いテーマであると考えられる。

しかし、教科書には通過儀礼をはじめとした一般的な着用シーンの写真が用いられており、高校生にとって新しい情報は無い。この内容では「和服は着る機会が少ない」という高校生の認識を変えることはできないのではないかと。たとえば、普段着として和服を着る例の紹介があればより身近な存在として具体的にイメージしやすいのではないかと考える。

教育図書による「高等学校家庭基礎 グローバル&サステナビリティ (6 教図 家基313)」では、高機能繊維の例として絹の質感を再現した合成繊維による和服の写真が掲載されている。また、開隆堂による「家庭総合 明日の生活を築く (9 開隆堂 家総310)」にはレースの帯や西陣織のネクタイなど、洋服と和服の垣根を超えた商品の紹介がある。このように、和服に触れる機会のない高校生にとって新鮮な情報が多く掲載されれば、伝統衣装としての格式高い魅力だけでなく、身近なものとして関心を持つきっかけになりうるのではないだろうか。

前述のアンケートでは「仕立て替えができる」という和服の構造上の特徴は高校生にとって魅力として認識されにくい項目であった。現代の高校生にとって服とは買うものであり、着なくなったら捨てるか、誰かに譲るものである。修理したり、仕立て替えたりして衣服を再生利用することは現代ではほとんど行われなくなったが、だからこそ和服の再生について学ぶことは、大量生産・大量消費の社会を反省し、自分自身の暮らしを見直すきっかけになる。授業で扱う内容として、高校生にとって新規性のあるテ

マのひとつであると考えられる。

「染織技術」に関する記述も多く見られたが、織物や染め物の名称は写真で見ただけでは現実感がなく、実物資料などを用いない限り興味を引きにくいと考える。高校生の実情として、布がどのようにして作られているかを全く理解していない生徒も少なくない。具体的なイメージを持てるような映像資料や実物資料を用意する必要があり、家庭科教員の授業準備の負担は大きい。

「柄」については内容に差があり、季節感を感じる模様なども紹介されていたが、吉祥文様については「この文様にはこのような願いが込められている」という記述に留まり、なぜその模様・モチーフが「縁起が良い」のか説明がない。教員が補足できなければ模様の持つ意味は伝わらないだろう。

「たたむことができる」ことは高校生にとって魅力の伝わりにくい項目のひとつであった。たたみ方を紹介する教科書は見られたが、余計なしわをつけることなくたたむことができる魅力はほとんど伝えられていない。限られたスペースに掲載されているため、図解のコマ数が少なく、初めて和服を取り扱う者にとってはわかりにくい点も問題である。また、「おくみ」などの和服の部位名称を用いて説明しているが、その説明も不十分である。これらの点に関しては教員による補足説明を必要とする。

「着付け」が難しく、自分でできないことを欠点と考える高校生はいずれの年も70%以上にのぼる。着装方法を学び、「これなら自分でもなんとか着られるかもしれない」という程度まで意識を変えることができれば和服に対する関心を高めることができ、重要なテーマのひとつであると考えられる。しかし、教科書に掲載された着装方法の図を見ただけで実際に着られるかどうかは疑問である。現行の教科書ではどの出版社のものも男性の長着の着方を省略している。男物の長着の場合は腰ひも1本のみを用いておはしよりをとらずに着る、ということは和服を

扱うことのできる者にとっては常識のひとつだが、高校生や和服に親しみのない家庭科教員にとって説明が省略されることは理解の妨げとなる。図を1ページに収めるための省略であるようだが、結果として実用性の低いページになっている可能性がある。和服の着方やたたみ方などの実物を扱う学習内容では、和服の形状や部位の名称、男女での構造の違いや着方の違いなど、基本的な事項の掲載がなくては結局教員の補足が必要となる。

また、良い着姿とはどういうものか説明がなく、着装できたとしても生徒たちは自己評価を行うことができず、評価につなげるのが難しい。

他にも、男女の長着では形状が異なることや、着付け方が異なることは掲載がないものが多く、そもそも腰ひもの締め方や締める位置についても言及がない。

家庭科の授業では限られた授業時間数で衣生活分野だけでなく、食生活や消費生活・高齢者や保育などの他分野を扱う時間を確保しなくてはならない。授業時間の制限を鑑みればやむを得ないことではあるが、簡潔な説明とするために概要を紹介するに留まっており、基本的な事項ほど省略される傾向にある。結論として、現状では家庭科教育が「自分で着ることができない」ことの解決策とはなっていない。

「着付けが難しい」「着る機会がない」のほかに「洗濯が難しい」「高い」「着ると苦しい」という3点もアンケートでは欠点として上位に挙がっていた。これらに関しては教科書ではほとんど言及がなく、「和服の洗濯の仕方」「和服の安価な入手方法」「苦しくなりにくい和服の着付け」というテーマは高校生にとって新鮮な印象を与える授業として新たに検討の余地がある。

これらの内容は一例として、「現代の和服」というテーマで授業を行えば一通り網羅することができる。管理の簡単なポリエステルを着物や、和服専門の古着屋の存在、着付けが簡単で苦しくなりにくい作り帯や着付け小物が開発さ

れていること、SNSを通じて着物を着るイベントが数多く開催されていること、和服を愛好する芸能人など、紹介するだけで高校生にも身近な衣服であると感じるきっかけとなりうる題材は非常に多い。

今後学校教育により次世代への和服の継承を試みていくのであれば、これまでのように伝統衣装としての格式ある衣服として知識を与えるだけでは、不十分なのではないだろうか。和服を媒体として継承されてきた価値観や美徳のような目に見えない文化や、世界にも注目される繊細で精緻な美しさを支える手仕事の技術の高さについても扱われるべきだと考える。

現代では知る機会が失われつつある、学ばなければ知り得ない和服の一面を若いうちから丁寧に伝えていくことが重要となるだろう。

5. まとめ

中学校では浴衣の着装が扱われているが、高等学校では仕立て直し・再生の文化に注目して和服を扱うことが、「共生」「持続可能な暮らし」などをキーワードにしている高校での学習内容に、適したテーマの一つであるといえるだろう。これを主軸として、「和服の形状・各部の名称」「解くと四角い布に戻る」「仕立て替えによって無駄なく使い切るしくみ」などの内容に絞り、より深く取り扱うことは可能だと考える。

前述のアンケートより、多くの高校生は浴衣か七五三の着物程度しか、和服に触れた経験を持たないという実情を窺い知ることができた。「和服」に対して高校生は共通認識と呼べるイメージをほとんど持っていない。したがって、授業の実施に際しては、和服とはどんな服なのかははっきり理解できる正確な図や写真、あるいは実物資料が必要である。和服の持つ歴史や学ぶべき文化・魅力を語るためには教科書には最も基本的な情報であっても省略することなく記載することが不可欠であると考え、それでもなお不足する事項は教員による補足が必要である。

本研究で得られた留意すべき事項及び課題は次のとおりである。

【生徒の実情】

・高校生は和服について具体的なことは何も知らず、共通認識として扱える情報はほとんどない。知識については体系的で明快かつ丁寧な指導が必要である。

【教科書】

・和服の形状や名称をはじめとした最も基礎的な事項の記載が不十分であり、授業の質が教員の補足内容に大きく左右される。

・和服の再生については、環境や持続可能な暮らしについて考える題材として高校生にふさわしいテーマの一つであると考えられ、授業展開の可能性について検討を深める価値がある。

・生徒にとって新鮮に感じられる情報が少ない。特に家庭総合においては、学習内容の目安である学習指導要領に「生活文化の伝承と創造」という文言が見られることから、洋服や靴と組み合わせた和服のカジュアルで自由な着こなしや、機能的繊維を用いた管理の手軽な和服について扱い、柔軟な視点を養う授業も有効なのではないだろうか。

【教員へのフォロー】

・教員に、教科書を補足できるだけの知識がないと扱うことが難しい。学習機会や教員向け資料の充実が必要である。

和服は奥深い魅力を持つ一方で、活動性や管理の手軽さで洋服に劣り、現代の日常着にはなり得ない。日常着になり得ない衣服を次世代へ継承していくためには、「多少不便でも好きだから受け継ぐ」と考える人を育てていかななくてはならないと考える。

和服の着用機会の減少した現代において、和服の魅力は理解されにくい。より体験的で、実物に触れることのできる授業を通して、知識豊富な教員が魅力的な授業を行うことが望ましい。

そのために、家庭科教員が和服や伝統文化について学ぶ機会をつくることを提案したい。たとえば、教員免許の更新講習などの機会を利用して最新の情報提供を行うほか、大学の家庭科教員養成課程に伝統文化を学ぶ授業を置くことが今後必要ではないだろうか。

また、限られた授業時間の中で学習指導要領に記載のない内容には時間が割かれにくい。中学校学習指導要領に続き、高等学校学習指導要領にも和服に関する学習が明記され、一定の学習時間が確保される必要があると考える。

参考文献

1) 中学校学習指導要領

昭和22年『学習指導要領 家庭編 (試案)』

昭和26年『中学校学習指導要領 職業・家庭編 (試案)』

昭和32年『中学校学習指導要領 職業・家庭編』

昭和33年『中学校学習指導要領』

昭和44年『中学校学習指導要領』

昭和52年『中学校学習指導要領』

平成元年『中学校学習指導要領』

平成10年『中学校学習指導要領』

平成20年『中学校学習指導要領』

2) 高等学校学習指導要領

昭和22年『学習指導要領 家庭編 (試案)』

昭和24年『学習指導要領 家庭科編 高等学校用 (試案)』

昭和31年『高等学校学習指導要領 家庭編』

昭和35年『高等学校学習指導要領』

昭和45年『高等学校学習指導要領』

昭和53年『高等学校学習指導要領』

平成元年『高等学校学習指導要領』

平成11年『高等学校学習指導要領』

平成21年『高等学校学習指導要領』